

要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読む力を高める小学校国語科学習指導の工夫 — 「思考構成シート」を活用して自分の意見を表す活動を通して —

府中市立南小学校 芝山 真樹子

研究の要約

本研究は、要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読む力を高める学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読む力を、目的に応じて筆者の考えの中心を問題に示されている条件に合わせてまとめ、文章の構成や事例の挙げ方を批判的に評価し、自分の知識や経験、考えなどに関連付けながら自分の考えを明確にして読む力とした。この力を高めるために、三段構成の「思考構成シート」を開発・活用することが有効であると考えた。そこで、第5学年を対象に「思考構成シート」を活用し、要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読む学習活動を取り入れた授業を行った。その結果、主張を捉え構成の工夫を読み取り、自分の考えを述べる力の高まりが見られた。このことから、「思考構成シート」を活用して自分の意見を表すことは要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読む力を高めることに有効であることが分かった。

キーワード：要旨を捉える 自分の考えを明確にする

I 説明的な文章を読むことの課題

1 全国学力・学習状況調査における課題

小学校学習指導要領（平成20年）の国語第5学年及び第6学年「C読むこと」の指導事項に、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」¹⁾と示されている。この指導事項に関わって全国学力・学習状況調査では、平成20年度B[3]「情報を読み取って書く〈図書館だより〉」及び平成22年度B[4]「情報を関係付けて読む〈目覚まし時計〉」が過去4年間の調査結果からの課題として挙げられている。平成24年度の調査においても、B[3]四「目的に応じて、複数の記事を結びつけながら読み、理由を明確にして自分の考えをまとめること」が、「読むこと」において、全国、広島県とも最も低い正答率という結果が報告されている。これらに共通することは次の2点である。1点目は、読み取ったことに、理由を明確にして自分の考えを述べること、2点目は、目的や意図に応じて、必要となる事実を読み取ったり複数の情報や経験や知識などに関連付けたりしながら、分かったことや自分の考えをまとめることである。本研究では、その課題を解決するための学習指導の工夫を考察する。

2 PISA 調査との関連性

全国学力・学習状況調査では、主として「活用」に関する問題において前述のような課題が見られる。これは、OECDが行っている学習到達度調査（略称PISA調査、以下「PISA調査」とする。）において、日本の生徒の課題となっている読解力育成についての課題と同様である。国立教育政策研究所「学力向上に関するこれまでの施策とPISA2009の結果」では、「読解力については、必要な情報を見つけ出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手である。」²⁾と述べられている。次に、PISAの読解のプロセスを示す。

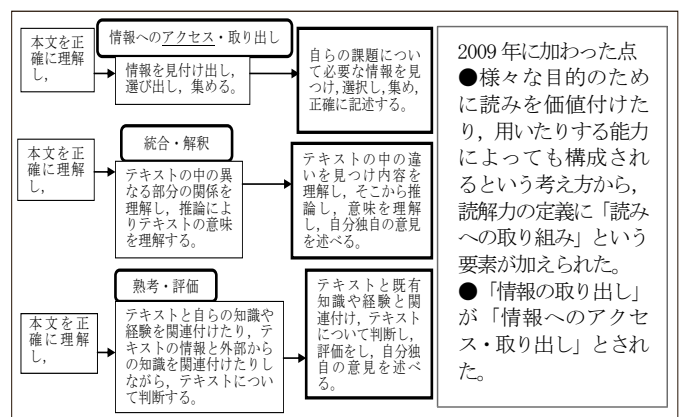


図1 PISAの読解のプロセス

図1は、PISA型読解力について有元秀文(2008)が図式化したもの³⁾にPISA2009年調査の定義を受けて、稿者が付け加えて作成したものである。

PISA調査と国語科とのつながりをみると、文部科学省「読解力向上に関する指導資料～PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向～」(平成17年12月)には、『根拠を明確にしながら自分の考えや意見を述べる力の育成』、『多様な言語活動を行うこと』をはじめとする指導上の改善を更に徹底して進めることが、今回のPISA調査を踏まえた指導の改善にもつながると思われる。⁴⁾と述べられている。瀬川榮志(2009)は、「文章中に自分の意見についての根拠が明確であることや、自力で作成した文章を評価する能力が求められる。このような読解力、表現力は、国語科教育の体系化に積極的に組み込む必要がある。」⁵⁾と述べている。また、水戸部修治(2012)は「PISAで求めるのは社会生活に生きる読解力であり、小学校の国語科で求めるのは、日常生活に生きる国語の能力です。これらは当然つながるものです。」⁶⁾と述べている。

これらのことから、PISAの読解のプロセスを踏まえて読解力を身に付けることが、現在全国的に課題となっている力を育成することにつながると考える。

Ⅱ 研究の基本的な考え方

1 要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読むとは

(1) 要旨を捉えるとは

要旨を捉えることについて、小学校学習指導要領解説国語編(平成20年、以下「解説」とする。)では、「目的に応じて、何のために、どのようなことが必要かなどを明確にした上で、文章の重要な点を表現に即して的確に押さえ、求められている分量や表現の仕方などに合わせてまとめることである。」⁷⁾と述べられている。白石範孝(2013)は、「要旨とは、筆者が文章全体で述べている考えの中心となるものである。」⁸⁾と述べている。

これらのことから、本研究では、要旨を捉えることを、目的に応じて、筆者が述べている考えの中心を、表現の仕方や分量など問題に示されている条件に合わせてまとめることとし、そのための指導の方法について研究を進める。

(2) 自分の考えを明確にしながら読むとは

自分の考えを明確にしながら読むことについて「解説」には、「筆者の意図や思考を想定しながら文

章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくことである。」⁹⁾と述べられている。これは、筆者の主張に至る文章全体の構成や事例の挙げ方などを正確に読み取って評価し、その上で主張を把握し、主張に対して自分の考えを明確にすることであると考える。また、「解説」には「自分の考えを明確にする場合には、自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら、自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読むことも大切となる。」¹⁰⁾と述べられている。

これらのことから、本研究では、文章全体の構成や事例の挙げ方などを評価し、主張に対して自分の考えを明確にすることとし、その際には、自分の知識や経験、考えなどと関連付けながら読み、自分の考えを明確にもつこととする。

(3) 自分の意見を表す活動について

国語科の言語活動について水戸部(2013)は、「単元を貫く言語活動は、学習の過程を、子ども自らが課題を設定し、その解決に向けて言葉の学びを深めていく過程にしていくための重要な手がかりになるのである。」¹¹⁾と述べている。単元を貫く言語活動を設定することで、児童が、課題を解決するために主体的に読むことができるようになることを考え、意見文を書く活動を設定する。「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～」【小学校版】(平成23年)には、「考えを伝え合うことは、自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かしたり、相手の立場や考えを考慮し、尊重することで自分の考えや集団の考えを発展させることにつながる。」¹²⁾と述べられている。また、水戸部(2012)は、「自分の考えを形成していくときに、独りよがりのものではなくて、友達と交流することによってそれがより明確なものになっていく。」¹³⁾と述べている。

これらのことから、自分の意見を表す活動として、次のような活動を取り入れる。まず、筆者の主張に賛否を述べ、文章中の叙述や今までの経験や知識から理由を述べる。次に、自分の意見を持ち、他者と交流する。そして、交流することを通して、自分の意見との比較を行い、自分の意見を再構築する。最後に、再構築した意見を基にして、意見文を書くこととする。

2 本研究における身に付けさせたい力

本研究において身に付けさせたい力とその指導内容をまとめ、次ページの表1に示す。

表1 本研究における身に付けさせたい力

	身に付けさせたい力	指導内容
視点1 要旨を捉える	①内容の中心となる事柄を捉え、それを支える重要な点を表現に即して的確に押さえる。 ②構成の工夫や巧みな叙述を読み取る。 ③求められている分量や表現の仕方に合わせてまとめる。	①キーワードや小見出し、主張を支える理由や根拠を読み取る。 ②書き出しや文末、例示、話題の進め方などを読み取り、批判的に評価して読む。 ③その内容を決められた分量(150字程度)に表記する。
視点2 考えの明確化	①自分の考えの立場を決める。 ②①の理由を述べる。 ③知識や経験と結び付けて、考えを構築する。	①筆者の考えに賛否を述べる。 ②根拠の事実や事例、構成の仕方や巧みな叙述を基に述べる。 ③経験を基に考えたことを表す。
視点3 他者との交流	①他者の意見と比較をして、違いやその違いの理由を見付ける。 ②他者の意見を取り入れ、自分の意見を再構築する。	①違いを見付けて、なぜ違うのかを考えたり、参考にしたい意見を見付けたりする。 ②自分の意見を再構築し、意見文を書く。

Ⅲ 本研究における実践の方向性

1 課題解決の方法

吉川芳則(2012)は、「クリティカルな読みは、言語活動(＝学習活動)として設定されないと、授業の中では機能しない。何を、どのように読むか、その観点が必要である。」¹⁴⁾と述べている。

次の表2の実践事例は、文部科学省委託事業の「全国学力・学習状況調査等を活用した学校改善の推進に係る実践研究」の中で、三つの実践研究校の内容をまとめたものである。

表2 全国学力・学習状況調査の結果を生かした実践事例⁽¹⁾

	実践校1	実践校2	実践校3
改善	ワークシートに自分の考えをまとめる活動の設定	「読みの視点シート」と「説明文教材系統表」の作成	論理的な学習の展開がわかるノート(ワークシート)指導の工夫
成果	自分の考え・意見を書く活動を継続的に行うことは、「書くこと」の素地を築くことにつながった。	教材が変わっても自分の力で内容を読み取れるような系統的な学習の積み上げが考えられるようになった。	段落相互の関係が分かるノート(ワークシート)を作成し活用したことに、要点をまとめるが正しく読み取ることができた。
課題	相手意識や目的意識をもたせる。	「読みの視点シート」、「単元系統関連図」を活用しての研究を行う。	ねらいに即して書く量や内容を吟味する必要がある。

表2の実践校では、ワークシートによる指導の工夫や、読む視点を明確にした読み取りシートの開発を行い、実践している。一人一人の実態に応じて正確に読むもの、主体的に要点を捉えるものなど、ワークシートの有効性を児童自身も把握できる実践を行い、成果を挙げている。これらの実践の重点は、ワークシートに記述する内容において、文章の読み取りや自分が読み取ったことを表現させることである。そこで、本研究では、ワークシートに読みの観点を示し、要旨を捉え自分の意見をもたせることとする。その観点として、文章の構成の仕方や事例の挙げ方、叙述に着目して批判的に評価することに主眼をおき、研究を進める。これらを踏まえ、実践で

は、三つの視点に沿って授業を行う。視点1では、要旨を捉えるための読む活動を授業の中核に置く。視点2については、筆者の意見に賛否とその理由を叙述から根拠を挙げて述べる。その際、自分の知識や経験と結び付けて自分の考えを示す。視点3では、交流の欄を設け、参考にしたい点などを書き込み、意見文の作成につなげる。

2 「思考構成シート」を活用して自分の意見を表す活動について

「思考構成シート」は観点に沿って読んだことを書き込めるようにしたワークシートである。このワークシートは、「要旨を捉える」「意見の明確化」「他者との交流」の三つの視点で、それぞれ身に付けさせたい力に沿って作成したものである。児童一人一人が何を基に、どのように考えたらよいのかを示し、思考の流れを促している。このシートは三段構成とする。思考構成シートを活用する際には、手引書であるstep1からstep3に沿って文章を読み取らせる。読み取ったことを、思考構成シートのⅠからⅢに書き込み、児童自身が自ら思考の流れを整理し、表現できるようにする。Ⅰは、要旨を捉えるためのシートである。step1は、要旨を書くための手立てとして、キーワードを抽出して要点をまとめる、筆者の構成の工夫を見付けることとした。Ⅱは、自分の意見をもち表現するシートである。step2にモデルを示し、書き出しの言葉、意見の述べ方が参考になるようにしている。Ⅲは、交流のシートである。step3に対話モデルを示し、他者の意見を取り入れ、再構築することで自分の意見を深める。また、振り返りの欄を設け、自己評価することで、主体的に読む力が備わるようにしている。

次の図2は、思考構成シートⅠ、図3は、思考構成シートⅠの手引書step1である。

思考構成シートⅠ	筆者の主張を読み取る	要旨を捉える	自分の意見をもたせる	交流のシート
筆者の主張があらわれているところを見つけよう。	二、説得するためにどのような事例を挙げているのか——を引いたところをまとめよう。	三、構成の工夫をしているところで「く」をひいたところを書き抜こう。	読み取った筆者の主張を百五十程度でまとめよう。	
まとめ	筆者の主張に賛成か、反対か意見をもう。	私はその意見に「」です。なぜかという「」の「」を引いたところからである。		

図2 思考構成シートⅠ

図3 思考構成シートⅠの手引書

児童に書き込ませる際は、筆者の構成の工夫や事例の挙げ方などを評価できるように3点の工夫を行う。1点目は、読者の立場で感想をもたせた上で、次に筆者の立場でなぜその表現にしたかなを考えさせることである。2点目は、注目すべき表記のヒントになる事例を示すことである。3点目は、友だちの意見を参考にさせたり、当てはまる箇所に線を引かせたりするなどの個別指導を行うことである。

Ⅳ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

説明的な文章において、「思考構成シート」を活用して、筆者の主張を捉えて自分の意見をまとめ、交流して自分の意見を再構築すれば、要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読む力が高まるであろう。

2 検証の視点と方法

検証の視点と方法を表3に示す。

表3 検証の視点と方法

	検証の視点	方法
視点1 要旨を捉える	①内容の中心を叙述に即して抜き出したり、まとめたりして捉えることができたか。 ②理由や根拠、構成の仕方、巧みな叙述などを表現に即して、的確に押さえることができたか。 ③求められている分量(150字程度)、表現の仕方に即してまとめることができたか。	事前・事後アンケート 意見文 授業記録 思考構成シート プレテスト ポストテスト
視点2 意見の明確化	①主張に対して賛否を述べることができたか。 ②その理由を叙述の根拠である事実や事例、構成の仕方や優れた叙述に基づき、述べることができたか。 ③経験や知識を踏まえ、自分の意見を述べることができたか。	
視点3 他者との交流	①他者と意見を比較して、違いやその理由を見付けたり、参考にしたい意見を見付けたりできたか。 ②参考にしたい意見を自分の意見と合わせて再構築することができたか。	

(1) プレテスト・ポストテスト

テストでは、第4学年の説明的な文章「みんなと学ぶ 小学校国語四年上 学校図書『書くこと まとまり(段落)と分かりやすさ』平成22年」を基に

稿者が作成し、それを使って、要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読む力に対する児童の実態を把握する。図4に、プレ・ポストテストの問題を示す。

図4 プレテスト・ポストテスト(抜粋)

(2) 事前アンケート・事後アンケート

要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読むことに関する児童の意識の変容を把握するために、検証の視点に基づき、事前と事後にアンケートを行い、4段階評定尺度法によるアンケートを行う。事後アンケートには、「思考構成シート」の活用の有効性に関する児童の意識についても自由記述で書かせる。

V 研究授業について

1 研究授業の内容

- 期 間 平成25年6月24日～平成25年7月1日
- 対 象 所属校第5学年(1学級31人)
- 単元名 要旨を捉え自分の考えを明確にしながら読む力を高めよう
教材文「見立てる」「生き物は円柱形」(「国語五上 銀河」光村図書 平成22年)
- 目 標

筆者の主張や、主張を述べるための理由や根拠を読み取り、自分の経験や知識と関連させながら、自分の考えをまとめ、意見を交流し、その考えを基に意見文を書くことができる。

2 指導計画(全11時間)

次	時	主な学習活動
一	1	・単元のはじめにプレテストを行う。
	2	・学習課題を設定し、学習計画を立てる。
	3	・「見立てる」を通読し、文章構成・要旨をつかむ。
二	4	・「見立てる」の要旨をまとめ、自分の意見を表す。
	5	・モデルの意見文を示し、見通しをもたせる。
	6	・「生き物円柱形」の全文を読み、「思考構成シート」を使いながら学習を進めることを知る。
	7	・「生き物円柱形」においてまとまりごとに内容を把握するために、「思考構成シート」を活用する。
	8	・キーワードをつなげて要点をまとめる。
	9	・「思考構成シート」を活用しながら要点をつなげて要旨を捉える。
三	10	・「生き物円柱形」の筆者の主張を基に「思考構成シート」を活用しながら自分の意見を書く。
	11	・交流することで、違いや関連性を見付けて自分の意見に生かす。

VI 研究授業の結果分析と考察

1 視点1 要旨を捉えることができたか

(1) プレテスト・ポストテストから

視点1の要旨を捉えることができたかを検証する。次の表4の視点1の判断基準に沿って、問い一の結果を図5、問五の結果を図6に示す。

表4 視点1「要旨を捉える」判断基準

段階	判断基準
A	①中心となる事柄を二つ捉えることができています。 ②理由・根拠 構成の仕方や巧みな叙述を全て読み取っている。 ③決められた分量に表記できている（150字程度）。
B	①中心となる事柄を一つ捉えることができています。 ②理由・根拠 構成の仕方や巧みな叙述を読み取っている。 ③決められた分量に表記できている（150字程度）。
C	①重要な箇所ではないところを抜き出している。 ②理由や根拠 構成の仕方、巧みな叙述のどれかを読み取っている。 ③決められた分量に表記できていない。
D	重要な部分ではないものを抜き出したり、理由や根拠ではない部分を読み取ったりしているもの。

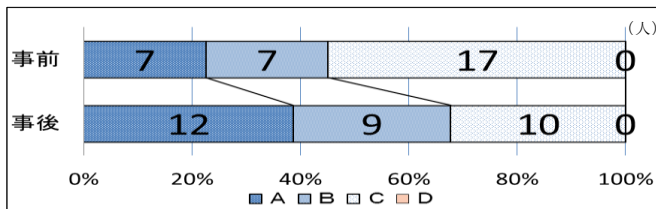


図5 問い一 筆者の主張を読み取る

プレテストでは、筆者の主張がどこに表れているのかを見付けられない児童が多くいた。しかし、ポストテストでは、おおむね筆者の主張を読み取ることができた。筆者の主張につながる叙述を探したり、例示から導き出した結論や繰り返しに着目して言葉を読み取ったりしたことで、筆者の主張を捉えることができた。また、C評価からB評価に変容した児童が、授業後の振り返りで「思考構成シートで、筆者の主張などをまとめられて、要旨がとても書きやすかった。」と述べている。

これらのことから各段落のキーワードを見付けて、要点をまとめ、要旨を捉えるという思考の流れが促されたものと考えられる。

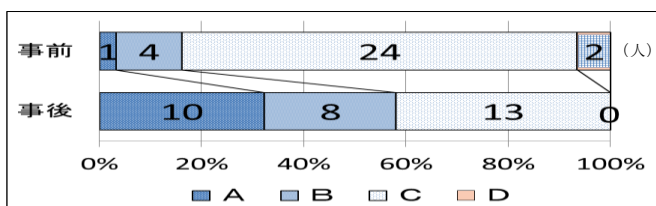


図6 問い五 構成の工夫・巧みな叙述を読み取る

問い五については、プレテストで、キーワードの言葉や文末だけに印を付けている様子や構成の工夫の意味が理解できていない様子が多く見られた。しかし、ポストテストでは、文末の表現に注目したり、「～こと」につながる形で抜き出したり、指示語を除いた形での語句に印を付けたりすることができていた。また、主張を述べる際のまとめの言葉に線を引いている児童が多くいた。

次に、思考構成シートIの手引書と思考構成シートIに児童が記述した内容を示す。

〈書き出しの工夫〉 ・地球にはたくさんの様々な生き物がいる。 ・君の指を見てごらん。	〈効果〉 ・「なるほど」と思う。 ・どんな生き物がいるか想像する。
〈話題の進め方〉 ・例外もある。 ・例を挙げて説明している。 ・「実験してみよう」と言っている。	〈効果〉 ・次に進みたくなる。 ・分かりやすい。 ・わくわくする。
〈例えの使い方〉 ・ちょうの羽や扇子等身近な例を使っている。 ・ミミズやへびを使っている。	〈効果〉 ・すぐ納得できる。 ・分かりやすい。
〈言葉遣い〉 ・問いかけるようにしている。	〈効果〉 ・確かめたくなる。
〈筆者の表現のうまさを見付けよう〉 ・円柱形のよさを、例をうまく使って表現している。 ・①あなたたちはこう考えただろうと予想させ、結果に結びつけている。 ・生き物の速さや形の説明だけではなく、多様なところに、たくさんの説明がされている。 ・②読者が見たら、絶対円柱形ではないチョウのことを円柱形だと言い切り調べている。	

思考構成シートIの手引書に書いた児童の記述内容

〈筆者の主張を読み取る〉 ・筆者の主張は、序論と本論にある。それは、多様なことと共通性である。 ・生き物は実に多様であるが、体の基本は円柱形だ。 (根拠を読み取る) 事例の挙げ方 ・動物や人で事例を挙げている。 ・チョウの羽が平たい理由をうちわやせんすで例を挙げて説明している。 ・新聞紙を1まい広げて立ててみる。曲がって立たない。でも、まるめて円柱形にすると横にしてみても立つという身の回りの実験をしている。 構成の工夫 ・「君の指を見てごらん」など言葉づかいを問いかけるようにして、読者の人が引きつけられるようにしている。 ・「地球には」と大きく見て読者に興味をわかせている。 ・筆者は、実験をして説明しているところ。
--

思考構成シートIに書いた児童の記述内容

下線部①や②は、筆者の主張を読み取り表現の仕方や、論の進め方を評価している。また、要旨を捉える際の視点3の問題に示された分量にまとめることについては、150字程度に要旨をまとめるという条件に対し、半数以上の児童が150字程度で要旨をまとめることができていた。

プレ・ポストテストの問い一、問い五の結果についてt検定したところ、事前と事後で有意な差が見られた。これらのことから、思考構成シートの活用

は、要旨を捉えることに学習指導の効果が認められたといえる。

(2) 事前アンケート・事後アンケートから

筆者の主張を読み取ることができたかを問う事前・事後アンケート結果を表5に示す。

表5 「筆者の主張を読み取ることができる」のアンケート結果

事後 事前	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	計 (人)
当てはまる	2				2
やや当てはまる	11	7			18
あまり当てはまらない	5 (児童 a)	3	2		10
当てはまらない	1 (児童 b)				1
計 (人)	19	10	2		31

事前・事後アンケートにおいて、否定的な回答から肯定的な回答へと変容が見られた児童 a、b の記述を基に考察する。

(児童 a の「生き物は円柱形」の要旨)
生き物は多様でその中の共通性は円柱形ということだ。さらに、チョウや木の葉なども円柱形。円柱形は強く速い形だ。そのため、生き物の基本となっている。生き物は円柱形が集まってきているのだ。共通性を見付け考えることはおもしろい。
(児童 b の振り返り)
ワークシートは私にとって参考になりました。特に、要旨を書く時、何を考えればよいのかが分かり、とても助かりました。今までは分からなかったことが、今は、中心となる事柄が私にも書けたような気がしました。

児童の記述内容

下線部のように、筆者が繰り返し使っている「円柱形」の性質に着目している。思考構成シートⅠには、角柱と円柱形の違いを考え、その違いを記述していた。「円柱形は速い」「円柱形は強い」と筆者が主張することにも注目し、折り紙や新聞紙などを使って実験し、納得した上で筆者の主張を捉えていた。振り返りからは、思考構成シートを活用したことにより、何を基に考えればよいのかが児童にとって分かりやすいものとなり、要旨を書くことができたことが分かる。よって、手引書を基に思考構成シートに記入したことが児童にとって有効に働き、要旨を捉えられたと考える。

2 視点2 自分の意見を明確にすることができたか

(1) プレテスト・ポストテストから

視点2の判断基準を表6に、その結果を図7に示す。

表6 視点2 「意見の明確化」判断基準

段階	判断基準
A	①主張に対して賛否を述べている。 ②①の理由を述べる。理由となる箇所を文章中の叙述に触れていたり、抜き出したりしている。 ③自分の意見を表すために妥当な経験や知識を交えて、自分の意見を表すことができています。
B	①主張に対して賛否を述べている。 ②①の理由を述べる。理由となる箇所を文章中の叙述に触れていたり、抜き出したりしている。 ③経験や知識は、自分の論の中に入っていない。
C	①主張に対して賛否を述べている。 ②①の理由を述べることができていない。 ③経験や知識は入っていない。
D	①②③とも表記できていない。

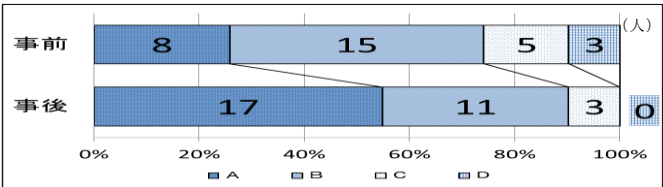


図7 問い九 自分の意見の明確化

プレテストでは、自分の意見をもてない、その手段が分からない児童がいた。しかし、ポストテストでは、自分の意見の理由を文章中から抜き出したり、その箇所に触れたりしていた。

思考構成シートⅡに書いた意見を見ると、まず、主張への賛否と、理由の根拠を叙述から述べている。これは、step2のモデルの意見の述べ方を参考にし、下線部①のように自分の経験や知識から導いた結論とともに自分の意見を述べ、筆者の主張のキーワードである「共通点」を用いて、自分の意見につなげている。これらのことから、自分の意見を明確にもつことができたと考えられる。

私は筆者の考えに賛成です。なぜその意見にしたかという、確かにちょっとでっばってたりするところをぬけば円柱形です。①実験もやってみたら筆者と同じように円柱形は、ふつてもへこませても、あまり形がかわらなかつたです。角柱は角をおすとへこんで形がかわって、そのままだったらもつだけで、へたつとなりました。つまり、円柱形がいちばん強い形です。物をよく見ても、小さい子が遊ぶかんたんに新聞紙で作ったほうは、円柱形に丸めているし、車止めは、円柱形です。つまり、円柱形が強いというのは昔からずっと続いている工夫なんだと思います。私は、もっと②生き物の共通点を知りたいと思います。

思考構成シートⅡに書いた児童の意見

(2) 事前アンケート・事後アンケートから

自分の意見をもつことができたかを、図8と表7のアンケート結果から考察する。

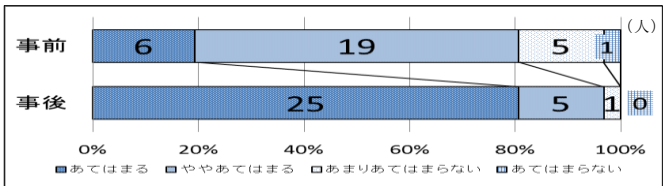


図8 筆者の意見に自分の意見をもつことができる

表7 「経験や知識も理由の中に入れて書いている」のアンケート結果

事後 事前	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	計 (人)
当てはまる	2				2
やや当てはまる	16	4			20
あまり当てはまらない	2 (児童c)	4	3		9
当てはまらない					
計 (人)	20	8	3		31

否定的な意見から肯定的な意見に変わった児童cの思考構成シートⅡに書いた内容を示す。

①私は筆者の意見に賛成です。なぜかという角柱にしてみるとある程度は強くなるし、角の部分がかみやすくなるからです。この意見の理由は、「なるほど」「確かになるかもしれない」など思ったからです。
私は、②トイレットペーパーのしんが全て紙がなくなったので立てさせたことがあります。してみると立ったので、円柱形は強い形だと思いました。

思考構成シートⅡに書いた児童cの意見

児童cは、下線部①のように筆者の主張に賛否を述べ、その根拠を叙述から述べる事ができた。また、下線部②のように、筆者の主張について改めて考え、身の回りや今までの経験から円柱形を見付けたり、実験して分かったりしたことを述べている児童が多く見られた。授業後の振り返りに「思考構成シートの順番などを見て、自分の意見をもつことができるようになりました。」と書いていた。

これらのことから、思考構成シートに示した観点が自分の意見をもつことに有効に働き、自分の意見を明確にすることができたと考えられる。

3 視点3 他者と交流して意見を再構築できたか

他者との交流を通して、よかったところ、意見が変わったところ、その違いの内容を思考構成シートⅢに記入した。振り返りにおいても、交流を通しての感想を書いていた。この記述を基に考察する。

- ・①私は、〇〇さんのがいいと思って参考になりました。〇〇さんの事例で私も少し意見が「あつ確かに。」と変わりました。
- ・②自分の意見や思いの「なるほど」や「確かに」なども書けばよりよくなることも分かった。もっと参考になることやこうすればよりよいというのを教えてほしい。

思考構成シートⅢに書いた児童の意見

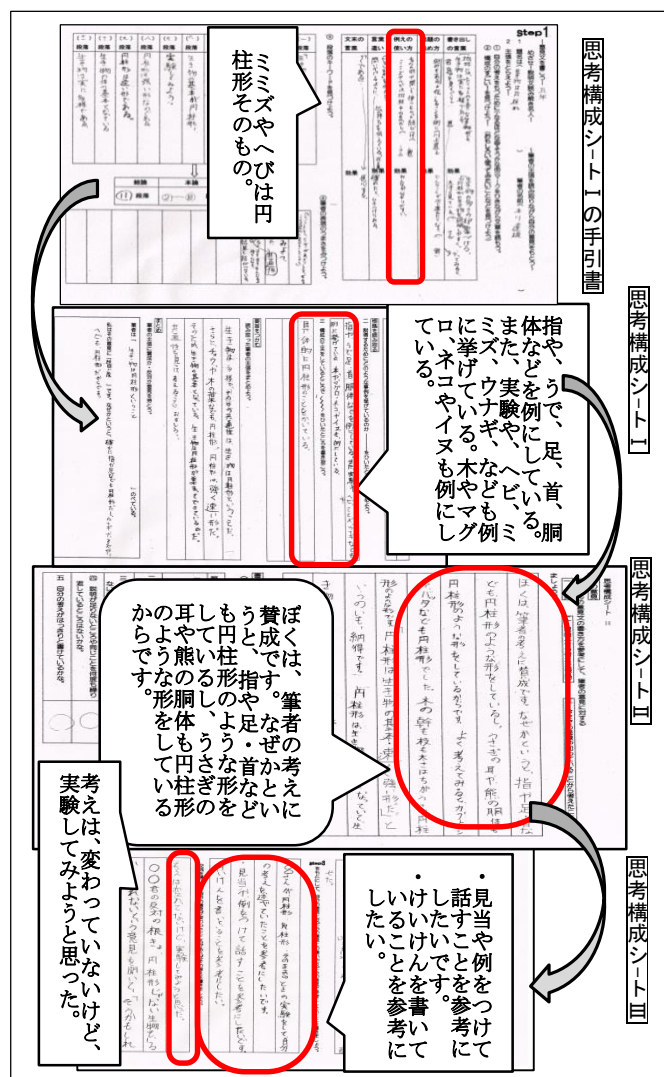
①のように、児童の記述から、交流することで、意見の違いを見付けて自分の意見の参考にすることができたといえる。また、②のように自分の意見を

振り返って足りない箇所を見付けたり、他者の意見を取り入れようとしたりするなど、自分の意見を深めていこうとする姿勢が見られた。また、step3で交流する時の話し方、聞き方を示して、自分の意見を相手がどのように思うのかを互いに交流することで、自分の意見を振り返ることができた。他者と交流して、意見を再構築することができたといえる。

事前・事後アンケートの全ての項目の結果についてt検定を行ったところ、全ての項目について有意な差が認められた。よって、要旨を捉え、自分の意見をもちながら読む力が高まったといえる。

4 「思考構成シート」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの有効性

次に、児童が書いた思考構成シートⅠの手引書・思考構成シートⅠ・Ⅱ・Ⅲを示す。



児童の思考構成シートⅠの手引書・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

児童の思考構成シートを見ると、Ⅰで筆者の主張

する生き物の共通性の円柱形の例を読み取っている。Ⅱでは、Ⅰで読み取ったことを生かして、自分が筆者の意見に賛成する理由を、筆者が挙げている円柱形の例を用いて述べている。Ⅲでは、Ⅱまでに確立した自分の意見を基に交流し、他者との意見の違いや自分の意見に足りなかったところを自分の意見に生かそうとしていることが分かる。これらのことから、三段構成の思考構成シートを活用することで、筆者の主張が捉えられ、筆者が挙げている事例を読み取り、その事例の挙げ方を活用して自分の意見を述べることができたと考える。振り返りでは、「この学習を生かして、いろいろな文章を読むときは、自分の意見をもちながら読んだり、次の国語の学習に役立てたりしたい。」と考えている児童がいた。

アンケートの「要旨を捉えること」と「自分の意見をもつこと」の関連性を χ^2 検定したところ、有意な差が認められた。要旨を捉えることが自分の意見を明確にすることにおいて関連があることがいえる。要旨を捉え自分の考えを明確にすることにおいて思考構成シートを活用したことが有効に働き、その効果が認められたといえる。

次に、単元を貫く言語活動として作成した意見文の一例を示す。

私は、筆者の考えに賛成です。なぜかというとなんか例を挙げたり、実験をしたりして読者に伝えているところがあるからです。そのことで、円柱形が強い形であることと、速い形であることがよく分かったからです。

また、わたしはなぜ生き物はこんな形をしているのかなと思ったことがあります。生き物の絵を描いている時はすごく思います。でも、「生き物は円柱形」を読んで生き物が円柱形の理由が分かったし、円柱形は生き物に役に立っていると思いました。

児童の意見文

この意見文を考察すると、下線部のように、問いかけや事例を載せることで読者に説得力をもたせようとしていることに気づき、評価することができている。また、筆者の主張の何に賛成するのか、何が自分の経験と同じなのかを明確にしながら書くことができている児童もいた。よって、意見文を書く活動において、要旨を捉える、意見をもつ、交流して意見を再構築するという段階に応じた思考構成シートを活用することは、有効であったと考える。

Ⅶ 研究のまとめ

1 研究の成果

小学校国語科の「読むこと」の指導において、「思考構成シート」を活用することによって、説明的な

文章を読みながら要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読む力を高めることができた。

2 今後の課題

- 定着が不十分な児童に対して、例えの使い方、書き出しの言葉など、児童が読む時の観点をより意識できるような支援方法を考え、指導に生かす。
- 各学年の段階を踏まえた「思考構成シート」を活用しての授業実践を行い、検証、改善を行う。
- 文学的な文章についても、自分の意見をもちながら読む学習指導の工夫の研究を進める。

【注】

- (1) 群馬県教育委員会(平成21年)『全国学力・学習状況調査の結果を生かした学力UP！実践事例集』に詳しい。

【引用文献】

- 1) 文部科学省(平成20年a)：『小学校学習指導要領』東洋館出版社 p.26
- 2) 国立教育政策研究所(2010)：『OECD生徒の学習到達度調査(PISA2009)「学力向上に関するこれまでの施策とPISA2009の結果」』
- 3) 有元秀文(2008)：『必ず「PISA型読解力」が育つ七つの授業改革―「読解表現力」と「クリティカル・リーディング」を育てる方法―』明治図書 p.65
- 4) 文部科学省(平成18年)：『読解力向上に関する指導資料～PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向～』東洋館出版社 p.12
- 5) 瀬川榮志(2009)：『「PISA型読解力」が向上する国語科授業の改革 高学年』明治図書 p.5
- 6) 水戸部修治, 澤井陽介, 笠井健一, 村山哲哉, 直山木綿子 杉田洋(2012)：『教科調査官が語る これからの授業 小学校 言語活動を生かし「思考力・判断力・表現力」を育む授業とは』図書文化社 p.7
- 7) 文部科学省(平成20年b)：『小学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 p.88-89
- 8) 白石範孝(2013)：『読解力がつく白石流「要点・要約・要旨」の授業』学事出版 p.45
- 9) 文部科学省(平成20年b)：前掲書 p.89
- 10) 文部科学省(平成20年b)：前掲書 p.89
- 11) 水戸部修治(2013)：『単元を貫く言語活動のすべてが分かる！小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド』明治図書 p.33
- 12) 文部科学省(平成23年)：『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』教育出版 p.8
- 13) 水戸部修治(2012)：前掲書 p.17
- 14) 吉川芳則(2012)：『新国語科言語活動の展開がよくわかるシリーズ クリティカルな読解力が身に付く！説明文の論理活用ワーク高学年編』明治図書 p.3

